

報告者 公明党議員団 北尾 修  
谷口 美保子  
前園 隆博

## 第 81 回全国都市問題会議参加報告書

令和元年 11 月の研修会参加について、下記の通り実施しましたので報告します。

### 記

視察日 令和元年 11 月 7 日（木）～11 月 8 日（金）  
参加者 北尾修、谷口美保子、前園隆博  
研修会会場 鹿児島県霧島市国分体育館  
内 容 1 日目 基調講演「鹿児島の歴史から学ぶ防災の知恵」  
主報告 「霧島市の防災の取組」  
一般報告「災害とコミュニティ」  
一般報告「平成 30 年 7 月豪雨災害における広島市の対応と取組について」  
一般報告「火山災害と防災」  
2 日目 パネルディスカッション「災害とコミュニティ」

#### ■ 1 日目 9:30～17:00

基調講演「鹿児島の歴史から学ぶ防災の知恵」

講師 志學館大学人間関係学部教授 原口 泉氏

内容

##### ①南九州のシラス文化と自然災害

南九州は火山の国であり、色々な災害に見舞われてきた。

狩猟時代から農耕時代にかけても多くの自然災害に襲われてきた、自然災害に関しては避けるしかない、逃げるしかない、そして祈るしかなかった。何度もの火山爆発により、火砕流が冷えて固まり多くの岩穴（ガマ）が出来、ガラス繊維を多く含んでいる、隠れガマとして存在しているものもあり食糧の貯蔵庫としても使われている。現在も多くのガマが存在している。

自然災害を受け入れ、治水技術を進めてきた。

##### ②門割制度という防災農法

災害が起こるという事を前提として「門割制度」という土地の割り替え制度を防災の観点から行っていた。霧島火山帯であり、台風、豪雨、日照り、干ばつと多様な災害に対して「被害の均分」、「危機の分散」等を鑑み、皆で回復力を身に付けてきた。そのことにより地域のまとまりと絆が生まれてきた。南九州においては、江戸時代より災害が起こることを前提とした社会づくりがおこなわれていた。「災害は身近なところで起こりうる可能性がある」という認識を持って、防災対策を考えるべき

である。

### ③人災から歴史資料を守る

多くの歴史資料が日人による戦闘などで焼失した事実がある。西南戦争焼失、しかし太平洋戦争の際には、なくしてはならないとGHQに抗議して守り続けた大切な文献がある。

このように災難を逃れ、守り続けてきた大切な文書、記録書はこれからも守り続けなくてはいけない、それが私たちの責任である。コミュニティを大切に又、AI社会突入も視野に入れての防災を作り上げていかなければならない。

## 主報告 「霧島市の防災の取組」

講師 鹿児島県霧島市長 中重 真一氏

### 内容

#### ①はじめに

霧島市は1市6町の合併で平成17年11月7日に誕生、人口12万5478人、面積603,16平方キロメートル海岸線は約35キロメートルにおよぶ。

霧島市の魅力は風光明媚な自然、観光に人気の場所が数多く点在している、温泉も湯量豊かな良い温泉が多くあり、人気を博している。

自然を利用した公園、また、アートの森公園も有名なデザイナーの作品展示等で賑わっている。

食においても豊富な農作物、そして霧島茶は二年連続全国1の栄冠を受賞している。

歴史文化では、NHKの「せごどん」にも登場し、「世界にひらく、人と自然・歴史・文化がふれあう都市」を目指している。

来年開催の国体、障がい者スポーツ大会の成功へ向け取り組んでいるところ。

#### ②鹿児島県の自然災害

近年、全国各地で起こって集中豪雨による浸水や土砂崩れ、鹿児島県においても11の活火山があり、シラス台地のため、水を含むと崩れやすく梅雨期や台風時の豪雨により、がけ崩れ等の土砂災害が数多く発生している。平成23年に新燃岳が噴火し霧島市周辺に甚大な被害をもたらした。

このことを受け、活火山と共生する霧島市では火山防災に取り組んでいる。

#### ③新燃岳噴火における市の対応

平成23年1月26日15時30分新燃岳で本格的なマグマ噴火が300年ぶりに発生した。

幾度かの小規模噴火はみられていた。警戒レベルを2から3に上げ、登山道の封鎖、住民や登山客の避難誘導を行うなど、経験した事のない噴火への対策を行った。これ以降、火山活動は収まったように見えたが、平成30年3月に連続的な爆発的噴火が起きた為、霧島市では災害警戒本部体制をとり、24時間体制で安全対策に取り組んだ。現在では警戒レベルが1となり平穏な状態が続いている。

#### ④火山防災の取り組み

住民、登山者への安全対策については霧島山火山防災マップを市で作成、ホームページにて随時更新、登山口に避難豪の設置、自主防災での防災訓練の徹底を行っている。

農業被害対策としては、水利組合等の農業関連団体との連携を深め、情報交換を行いながら農業被害の低減に努力していきたい。

観光業界等の被害対策については危険な状況だけの報道ではなく、噴火後の安全な状況、回復に向け

頑張っている住民、観光地の姿を繰り返し報道していただけるよう伝えていきたい。

自治体間、関係機関等との連携・協力については霧島山を取り巻く5市2町で構成する「環霧島会議」にて災害に関する相互応援協定を締結。

火山専門家も加えた「霧島山火山防災協議会」では地域防災計画の見直し等も協議している。

防災関係機関や地域の団体、地域の住民が相互に協力し、緊密な連携のもと、共助の強化に努める。

#### ⑤おわりに

これからの防災には共助として顔の見える助け合いが必要である。また、自助として住民一人一人が自らで情報を得ること等、自らの命を自らが守るという意識を持たなければいけないと考える。

### 一般報告「災害とコミュニティ」

(地域から地域防災力強化への答えを出すために)

講師 尚絅学院大学人文社会学群長 田中 重好氏

内容 ・コミュニティをどう捉えるか？

- ①コミュニティは社会関係、社会集団、地域的アイデンティティの三つの要素からなる境界を持った住民の塊。
- ②コミュニティは様々な地域の総称。
- ③コミュニティは重層的な構造を持っている。
- ④個々のコミュニティは個性的であり、そのため、コミュニティは多様。
- ⑤コミュニティは行政から「つくることのできない」もの、自主的な存在。

・災害時のコミュニティの実態

#### (1) コミュニティと避難行動

避難行動を「個人ごとの行動」と捉えるのは間違いで、集合的、あるいは組織的行動である。避難行動は物理的な環境、情報環境、組織環境の三つの環境の中で行われるもの。

#### (2) コミュニティと復興への取組み

行政中心の現在の日本の復興政策にあっても、コミュニティは重要な働きをしている。

・現在の防災・復興対策におけるコミュニティに関連する課題・問題点

現在の日本の防災対策の基本は第1に中央集権的な行政中心主義であり、第2は科学的な知見に基づいて防災計画を策定し実施するというものである。その結果、住民は自治体に依存し、自治体は政府に依存するという「依存の悪循環」が生じがちであった。

阪神淡路大震災を契機に登場した「公助・共助・自助」論で見直されてきて、行政中心から社会的なセクターの重視へ、中央集権から地方分権的な政策の推進へ変化してきた。

・自治体で、どうコミュニティ対策をしていったらよいのか？

#### (1) コミュニティの側から

コミュニティの内側から自発的に地域防災力を高める努力が求められている。

(2) 自治体の側から

コミュニティの「基礎体力」とか「生活コミュニティ」をどう向上させるか。

コミュニティごとの特徴を自治体が正しく把握して、コミュニティ政策を推進することが重要。

・結論として、地域防災力の向上は政府に頼るのではなく、それぞれの自治体が答えを出していかなければならない課題である。

■2日目

パネルディスカッション

テーマ；防災とコミュニティ

コーディネーター；追手門学院大学地域創造学部地域創造学科長・教授 田中正人氏

パネリスト；専修大学人間科学部教授 大矢根 淳氏

香川大学地域強靱化研究センター特命准教授 磯内千雅子氏

霧島市国分野口地区自治公民館長 持留憲治氏

静岡県三島市長 豊岡武士氏

和歌山県海南市長 神出政巳氏

追手門学院大学地域創造学部地域創造学科長・教授 田中正人氏より

災害リスクは複雑化、自然災害は多様化、激甚化、広域化している。

テーマとして、地域またはコミュニティの連携と統合、再構築を如何に図っていくかにある。

専修大学人間科学部教授 大矢根 淳氏より

コミュニティ・レジリエンス醸成のカギをさぐって -結果防災（活動・組織）の掘り起し-

\*原義と実践を振り返りつつ共助を考える

\*結果（生活）防災の工夫～「土手の花見」から「防災マップ」づくりへ

\*～個人情報保護法の再読が必要

香川大学地域強靱化研究センター特命准教授 磯内千雅子氏より

目標と限界を共有する戦略的な連携計画 -地域継続計画 DCP-

\*多様な主体との連携の形 -地域継続計画 DCP-

\*BCP・DCP の効果と地区防災計画について

霧島市国分野口地区自治公民館長 持留憲治氏より

地域コミュニティの強化を目指して

\*防災事業の目的と必要性、年間計画

\*防災訓練及び住民アンケート

\*行政及び企業との連携について

静岡県三島市長 豊岡武士氏より

安全・安心なまち三島を目指して -地域防災とコミュニティ-

- \* 地域コミュニティ組織の現状
- \* 避難所運営に関する取組み
- \* 地区防災
- \* 地区防災計画の策定
- \* 防災の担い手の確保・育成の取組みについて

和歌山県海南市長 神出政巳氏より

防災活動を通じた地域との連携 -更なる信頼関係の構築に向けて-

- \* 南海トラフ地震、大雨・台風に備えて
- \* 地域と連携した防災活動の実施について
- 災害対策事業、市民一斉訓練、重点地区訓練、ミニ説明会など

感想 各自治体での様々な取り組みの紹介などがあり大変参考になりました。各地域により方法は異なります。本市ではタイムラインの策定による地域とのコミュニティなどに重点をおいていますが、本市で取り組めるものがあるか今後検討していきたいと思えます。

#### 行政視察

音楽鑑賞と霧島の野外アートに触れるコース

みやまコンセール

鹿児島県の霧島国際芸術の森構想の中核施設として建設されました。世界各地で活躍する 50 人あまりの旧知の名手たちが年に一度集い霧島国際音楽祭が開催されています。この音響は世界的にも評価の高いものとなっています。

実際にミニコンサートの演奏をしていただき素晴らしい音響を感じることができました。

霧島アートの森

霧島の自然のなかに芸術性の高いアート作品が配置された野外美術館です。

約 2km の園路を散策しながら大小様々なユニークな作品を鑑賞できました。

#### 全体感想

全国の市町村の様々な取り組みはとても参考になりました。すぐに貝塚市でできるかどうか、今後しっかり検討を行っていききたいと思えます。